

目指す学校像	生徒が夢や希望をもって主体的に学び、豊かな自己実現を目指せるよう、教職員がきめ細かく支援する学校
--------	--

重点目標	1 「教える」から「生徒が主体的に学ぶ」授業への改革 アクティブラーニングの推進と情報端末活用の推進 2 生徒指導・教育相談体制の充実 安心・安全な学校に向けた環境整備及び防災教育の推進 3 地域との連携強化 これからの白幡中学校を見据えたコミュニティースクールの充実 4 一人ひとりが力を発揮し、お互いから学び合い、成長できる教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・数学ともに全国・市平均と比較し、概ね良好。 ○日頃の授業態度は良好、学習にしっかり取り組む生徒が多い。 (課題) ○指示されたことはしっかりできるが、自ら率先して疑問をもち課題を解決する意欲は高くない。 ○特別な支援を必要とする生徒に対する適切な対応について特別支援学級の担当者で連携して指導を行うことが必要である。	・「学びの指標」・主体的な学び及び、探究的な学び」の肯定的評価を向上させる授業を行う。 ・支援策の提示、対応を行い、常に効果を確認する。	・全国学力・学習状況調査の自己採点、定期テスト等結果の個人評価から、生徒が自らの学習状況について把握できるようにする。 ・「特活を要としたキャリア教育」の推進により、生徒一人ひとりが自己の課題を意識した学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。	・生徒が自己採点の結果を基に、自らの学習状況を把握し、目標を立て、達成に向けて努力できるようになったか。 ・生徒が自己の課題を意識できる、フォローアップタイムを实践、改善したか。 ・生徒が自己の特性や、課題を発見し解決するために積極的に取り組むことができたか。	・本校はどの項目も全国及び市平均を上回っているが、その中で課題としては国語「我が国の言語文化に関する事項」、数学「関数」をそれぞれ上げ、教科において確認を行い、成果を共有し次の課題作成に役立てている。 ・定期テスト前にフォローアップタイムを实践し、個々の課題について学習に取り組み、教員が寄添い指導した。生徒が自分で課題を考えることで、意欲的に学習に取り組むようになった。 ・キャリア教育推進のため、失敗を恐れず挑戦できるような、理想の学校像、生徒像の設定を行った。	B	・平均的な学力については向上が認められるが、個々については課題がみられる。教員は「教える」授業から「主体的に学ぶ」授業に転換し生徒を育てることができるよう研究を進める。 ・キャリア教育推進のため、理想の学校像、生徒像の設定ができたので、学年毎に具体的な実践について研究する。	・フォローアップタイムを実施しているが、主体的な生徒の育成として評価してよいのではないかと、いじめ防止対策をはじめ、白幡中の目指す学習者像の作成など、先生方が真摯に取り組む姿勢は心強いものである。 ・キャリア教育について、中学校で行う進路指導の大切さ、将来の夢や生き方、それに向かってどう学んでいくか、今どうするか、進学した先に何をしたいかという上位目標ができていくことが大切である。
2	(現状) ○昨年まで不登校だった生徒の中で、新学期より進級や進路決定を意識し、頑張って登校している生徒が複数いる。 ○各担当者による安全点検の確実な実施と管理職、用務員による点検を実施しており、危険個所の把握及び対応はできている。 (課題) ○自身や家庭の理想と現実のギャップによるストレス及び、自己肯定感を認められない生徒が相談し教員が支援できる体制づくり及び、外部機関との連携。 ○Sola る一むを活用する生徒への、適切な対応の検討を進める。 ○危険個所等の早期発見と適切な対応の判断、校内措置及び、市教育委員会と連携した対応の実施。 ○避難所運営訓練への参加等によるこれから起こりうる災害等への学校全体の対応力の強化。	・生徒一人ひとりへの細やかな寄り添いができる若い教職員の生徒指導、教育相談技能育成とリーダーの育成。 ・Sola る一む環境について生徒の意見が生かされている。	・日常会話を大切に、相談しやすい人間関係作りを学ぶ。生徒に徹底的に寄り添い、聞く技術を身に付ける。 ・気持ちのよい挨拶を推奨し、人間関係作りを支援する。 ・いじめの早期発見、早期対応。不登校生徒への早期対応。 ・Sola る一む当初レイアウトについて、生徒と意見交換を常に行う。	・通常の生活の中で意図的な会話を行い、生徒の状態を理解しフォローアップする力を身に付けること、生徒から相談をする機会が増えたか。 ・教職員同士で声の掛け合いを行い、互いを支え、フォローが必要と思われ生徒への発見、指導のアドバイスができたか。 ・Sola る一むを利用する生徒に寄り添い、学びやすい環境について力を合わせて創ることができたか。	・教職員と生徒の指導外の会話が多くなり、普段の生活の様子を日常会話として理解できることが多くなった。結果として生徒が教員に相談する機会が増え、また生徒の変化に気づいて声をかけることができ、相談の件数は増加したが、初期段階で対応できる割合が高くなった。 ・教職員による生徒の情報共有の徹底により、職員間の会話が増え、授業等の意見交換も増えた。それにより、生徒への対応等のアドバイスもより行われるようになった。 ・Sola る一む利用生徒に必ず教職員が対応することを徹底し、家庭との連携も行うことができるようになった。	A	・生徒と職員の日常会話の増加に伴い、「心と生活のアンケート」での要面談者の減少は好ましい結果である。油断することなく継続するとともに、スクールダッシュボードとの併用により、よりきめ細かく生徒の変化に気づくことができるように観察する。 ・職員による授業見学や情報共有をさらに徹底する。生徒の課題だけでなく、貢献面等の共有も行う。 ・Sola る一む利用生徒の活用状況を把握し、定期面談で保護者との共有を図り、今後の方針について本人とともに意識の確認を行う。	・教職員と生徒の会話の機会を意図的に多くもつようにした結果、教職員同士の会話も生徒に関するものが増えた。結果、明るく笑顔のみえる生徒が増えた。登下校、諸行事の表情に笑顔があふれていた。 ・先生との会話が増えたことで、友人関係や先生方の安心感が大きくなった。
3	(現状) ○学校と地域の連携、生徒の地域活動への参加等、昨年度の取組は、部活動単位及び、個人参加合計で前年度を大きく上回り、意識の高まりを地域にも理解していただき、成果を上げた。 (課題) ○学校だよりの配布、HP 更新による、情報発信の充実。 ○学校運営協議会での充実した「熟議」のためまた、生徒の学ぶ様子を保護者が理解するための学校公開・学校公開期間の実施。 ○学校の教育活動、地域活動のさらなる連携のための情報共有と協議の実施。 ○これまで実践した「地域で目指す生徒像」の学校・家庭・地域に広く周知するとともに、短期的、長期的な取組について、学校、家庭、地域の考えを共有し実践のための協議を行う。	・目指す生徒の姿を地域全体で共有し、生徒の自律につながる取組を行う。	・HP、学校だより、学校運営協議会等あらゆる場面で広報し、目指す生徒の姿を広く共有する。 ・学校公開を積極的にを行い、実際の様子を保護者、地域に伝える。 ・地域のボランティア活動等に積極的に参加し、自分の考えで地域の一員として活動できる生徒を育成する。	・「目指す生徒像」をHP、学校だより、学校運営協議会等あらゆる場面で発信し共有できたか。 ・学校公開を行い生徒の取組について保護者・地域の理解を得ることができたか。 ・地域でのボランティア活動等に積極的に参加し、自分の考えで地域の一員として活動できる生徒を育成する。	・「目指す生徒像」について、教職員で検討、また生徒、保護者アンケートを実施した。白幡中学校の目指す学習者像について継続検討している。 ・毎月、学校公開期間を設け授業の公開を実施した。周知について継続が必要である。 ・学校地域連携コーディネーターを中心に地域活動への積極的参加を呼び掛けた。多くの生徒が参加し、地域貢献を認められ達成感を味わったと回答があった。	B	・予測困難な時代を生きる生徒に「主体的に学ぶ」力と、「失敗を恐れずに挑戦できる」力を身に付けさせる指導を、教育課程全体で取り組む。 ・毎月の学校公開を活発にする。 ・学校運営協議会に生徒が参加するように発展させる。	・順位に関して、他の生徒と比べることは縦の比較になるので、自分自身の理解度を比べる横の比較を理解させてほしい。 ・避難所開設訓練の中でもボランティア活動証明書を出してもらったが、他でも出してくれれば子どもも励みになる。 ・防災教育について、本校のスタイル(動きでなく考え方)を継続してほしい。
4	(現状) ○エバンジェリストを中心とした、情報端末、タブレット等 ICT 機器の活用について職員研修意識が高まりつつある。 ○個別最適な学びに迫る方法を検討している。 ○自動採点システムの活用により、生徒の「強み」「弱み」をより把握できるようになった。 (課題) ○ICT 機器の活用のための環境整備と教員数に対するエバンジェリスト数を充実させ、不明点を質問できる雰囲気醸成が必要。 ○積極的な授業公開と授業見学等、素晴らしい取組みを互いに見合えるシステムを構築する。 ○スクールダッシュボード(SD)を活用し、生徒の様子をより把握するとともに、おはようメーターと教員の感覚の違いを把握する。	・「個別最適な学び」の実現を目指し、教職員一人ひとりが力を発揮し、学び合い成長できる研修を実施する。 ・「自分の子どもに見せたい先生としての姿」と「自分の子どもに受けさせたい授業」を実践する。 ・SDを生徒の指導に生かす。	・校内研修計画に従い、ICT 機器の活用について理解を深め、従来の「一斉講義型授業」から「個別最適な学び」への転換を図る。 ・ICT 機器を活用し、特性や学習進度、到達度に応じ、学習方法の選択肢を用意する。「指導の個別化」や、「総合的な学習の時間」等を活用し、生徒が自分の興味関心があるものについて学習テーマを選び、探究的に学ぶ「学習の個性化」の推進について研修を行う。 ・自動採点システム等を活用し、生徒の全体的な、個人の強み弱みを分析、そして教師の指導の強み弱みを理解し、それぞれの課題に応じた課題解決への取組を実施する。 ・SD と自身の感覚の違いがある時にも生徒に声をかけ、生徒が安心して生活する助けをすることで、自身の生徒理解の力を向上させる。	・ICT 機器を活用し、調べ学習や発表等を行う機会が増加し、生徒のまとめ方、発表の仕方が向上した。相手に伝えるためのポイントのつけ方、違いの伝え方など工夫の工夫により、調べ方が向上し、視野の広がりによる理解の深さも高まった。 ・スタディサプリなど ICT を活用した学習の方法により、生徒が自分に必要な学習を選択するようになったか。また、自身の良い面を伸ばそうとするか、苦手な面を克服するかの考え等生徒による選択が一律でなくなってきたか。 ・システムの活用により、生徒の特性を発見する機会が増えるとともに、教職員の指導の課題等も教職員自身が理解し、改善に努める姿が目立つようになったか。 ・SD の活用により、教員の生徒を理解する力を向上させることができたか。また、生徒の不安について見過ごしを防ぐことができたか。	・家庭での評価の判断基準に学年順位が用いられる傾向が強く、そうではなく理解度が大切であることを伝えていく浸透させることが難しいと感じている。 ・部活動や、フォローアップタイム等教職員だけでなく地域の方との連携により、より充実した体験や学びができること、本校の防災学習のように放課後だけでなく教育活動全般において地域との連携の必要性を教職員も生徒も理解することができた。 ・失敗を怒らず、そこから何を学んだか、何が必要かを考えさせることでチャレンジする姿勢は高まりつつある。家庭にも浸透させるよう方策を検討している。	B	・ICT 機器の活用力及びプレゼンテーション力は向上している。課題を設定されるのではなく、自分の身の回りに改善点を見つけ、その改善方法について ICT 機器の活用だけでなく、現物資料の提示や視覚資料等を活用し、デジタルとアナログを融合させ、より有効な伝え方を身につけさせる。 ・自動採点システムを活用し、採点だけでなく、観点別の理解力等、個々の力を分析し、学びに向かう力がより大きくなるようにしていく。 ・デジタルに支配されるのではなく、活用する考え方で、生徒理解、授業力向上に繋げる方法について研究する。	・自動採点システムについては、個別最適な学びの中で自己の理解度の分析や学びが明瞭であり、活用する上で有効だと思われる。 ・デジタル化が進み、いろいろな機会が増えた。教室の箱は変わらないが中身が変化している。一人1台端末において、様々なパフォーマンスができていく。残念なのは、教室に辞書が無い。OECD の調査からも活字から学習効果がでているので、あるとよい。

学校教育目標	(知) 主体的に学ぶ生徒 (徳) 正しく判断できる生徒 (体) 心身を鍛える生徒
目指す学校像	生徒が夢や希望をもって主体的に学び、豊かな自己実現を目指せるよう、教職員がきめ細かく支援する学校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

重点目標	1 「教える」から「生徒が主体的に学ぶ」授業へ改革することにより、真の学力を身に付けさせる。 2 校内教育支援センター「Sola(ソラ)る一む」の環境を整備すると共に、心の通い合う温かい学校づくりを推進する。 3 学校運営協議会に生徒の意見を取り入れると共に、本校教育活動の情報発信を拡大・充実させる。 4 生徒が安全・安心に過ごせる環境を整備し、利便性の高い教育環境(ICT環境を含む)の充実を図る。 5 教職員の輪を充実させると共に、若手教員の人材を育成し指導力の向上を図る。
------	--

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価	
年 度 目 標			年 度 評 価			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
						次年度への課題と改善策
1	<現状> ○「年間授業日数 205 日以上」の規定が撤廃され、学びの質の向上が求められている。 ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査において、全国や市平均に比較し良好である。 <課題> ○市教委の研究指定「グローバル社会で活躍できる人材」の2年目であり、「理想の学校像」に向け、学年ごとに「教える」から「主体的に学ぶ」授業実践を研究しなければならない。 ○全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っていますか」に肯定的な回答割合(64.1%)が、全国平均(66.3%)を下回っている。	○学びのポイント「じ・し・や・く」で学習の質的向上を目指す	○生徒が自らの学習状況を把握し、目標達成に向け努力する場面をつくるなど、主体的に学ぶ授業を実施する。 ○フォロアップタイム(放課後自主学習時間)を実施する。 ○自動採点システムを活用し、個に応じた課題を明確にして個別最適な指導を実現する。	○1,2年生のカリキュラムオーバーロードについて、1060時間以内に削減できたか(R6は1069時間) ○学校評価(保護者)「分かりやすい授業にしていこうと努力している」の肯定的な回答が73%以上(R6は69.9%)		
		○R6に設定した「目指す生徒像」の実現に向けた進路・キャリア教育の充実	○学年ごとに進路・キャリア教育に係るテーマを設定し、総合や学活の時間において探究する授業を実施する。 ○3年生の面接練習等の機会において、将来設計をしながら進路選択をさせることを重視した指導を実施する。	○学校評価(保護者)「将来の進路や職業などについて適切な指導をしている」の肯定的な回答が60%以上(R6は58.5%)		
2	<現状> ○エンパワメントの視点をもって、誰一人取り残すことのない Well-being(幸せ)を保証する教育の実現を目指している。 <課題> ○年間15日以上欠席生徒は11.62%(R7.3)、「心と生活のアンケート」(R7.1実施)における面談対象者は11.62%が該当している。 ○教職員が生徒の気持ちに寄り添った愛情ある声掛けを強化し、心温かく開かせ、個別的且つ特性に応じた支援をすることが求められる。	○Sola(ソラ)る一むの充実	○教諭・さわかみ・養護教諭・SC・SSW・SA等が生徒の情報を共有し、生徒理解に向け連携・協働する。 ○3類4層構造の教育相談を実践する体制を強固にする。	○積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協動的な組織により、Sola(ソラ)る一むを運営できたか。 ○スクールダッシュボードのライフ・ログを活用し、生徒のリアルタイムな実態を把握して、指導を実現できたか。		
		○個別的・包括的な生徒理解と支援の実現と計画的な教育相談活動	○教職員の教育相談活動に関する知識・技術の向上のため、外部から専門性を有する講師を招き研修等を行う。 ○生徒の自己実現や援助希求能力の育成のため、他職種等と連携し道徳やいのちの支え合いの授業を実施する。	○心と生活のアンケート(R8.1実施)の信頼自己の平均が8.4以上(R6は8.22) ○教職員一人ひとりの教育相談に関する知識・技術の習得と向上を目的とした校内研修が実施できたか。		
3	<現状> ○生徒が意見を表明しやすい環境づくりと、学校運営や地域形成の一員として民主的で公正な社会を実体験できる場づくりが求められている。 ○昨年度から毎月学校公開期間を設定し、保護者や地域の方々に学校教育活動を公開している。 <課題> ○全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合(72.2%)が、全国平均(76.1%)を下回っている。	○生徒や教職員による地域の行事等への積極的な参加	○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまな催し物について、生徒や教職員が積極的に参加できるよう、計画を立てて実施する。	○「浦和区民祭」「地元自治会の夏祭」「岸町小土チャレ」「避難所開設訓練」等の地域主催の行事に、教職員や生徒が参加できたか。		
		○学校運営協議会の充実	○学校運営協議会に生徒が参加し、本校の学校教育活動の現状と課題について発表させる。	○本校や地域の課題に対する生徒の意見を反映した取組を具現化することができたか。		
4	<現状> ○校舎が竣工して今年度で47年目を迎え、経年劣化による老朽化が見られる。 ○R8から段階的に35人学級となることによる普通教室の増加を想定した教室配置を整備する。 <課題> ○昨年度策定した防災教育のカリキュラムに基づき、総合等の時間で学年ごとのテーマに目標達成に向け、指導を充実させる。	○教職員の連携による学校の安全管理の充実	○事務職員を通じて、毎月の安全点検であがった営繕要望の中から安全面を重視して修繕に係る優先順位をつけ、学校配当予算を計画的に執行する。 ○8月に備品点検を実施し、粗大ごみ等を適正に廃棄する等、用務員等と協働して、校内の整理整頓を実施する。 ○生徒が南区避難所運営訓練に参加するなど、防災教育の充実を図る	○経年劣化による危険箇所を割り出し修繕の実施することで、安全・安心な教育環境の整備をすることができたか。 ○学校評価(保護者)「白幡中の施設・設備は、学習環境として、ほぼ満足できる」の肯定的な回答が65%以上(R6は62.7%)		
		○本校の学校教育活動について、保護者や地域への周知	○学校HPに「今週の一枚」と「学校運営協議会」のパナーを新設する。 ○新たにスクリーンを取り入れ、たより等を配信する。	○本校の教育活動について、地域や保護者にICT等を活用して周知する新たな取組を実現することができたか。		
5	<現状> ○タブレット等を適切な場面で用いた効果的な授業の在り方について校内研修を重ねてきたことで、ICTを効果的に活用する教員が増えるなど、ICTスキル向上が見られる。 <課題> ○ICTを適切な場面で活用した学びを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが求められている。 ○若手の教職員の人材育成と職場環境の向上が求められている。	○ICTを効果的に用いた授業改善	○教育研究所の希望研修や他校の授業研究会に参加し授業力向上を図る。 ○若手教員を対象に、市の教育行政施策等に関する学習会を実施する。 ○ICTを活用した授業力の向上を図るため、校内で学び方改革推進担当を講師とする「白幡PCカフェ」を年に5回程度開催し、授業力向上を図る。 ○今年度転入した教職員が、職員会議終了後に輪番で「危機管理スピーチ」を実施する。	○「市教員等の勤務に関する意識調査」の「職場に悩みや本音を分かち合える教職員はいますか？」の肯定的回答が60%以上(R6は50%) ○授業力向上に係る本校教職員の実践的な研修環境の構築 ○アシスタントティーチャーを受け入れ、効果的に学校運営に生かすとともに、人材育成をすることができたか。		

実施日令和8年 月 日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等